

第14部 被災地の子育て⑥



復興最前線

支援の新たな動き

親子に憩いの場提供

巡回訪問、意見交換会も

沿岸被災地では東日の子ども近くで、母本大震災後、子どもたちがお茶を飲みながら育児に関する親をから会話を楽しむ。和支援する新たな動きがやかな雰囲気室内に出ている。仮設住宅での生活や教育環境の変化で遊び場や親同士が交流する機会確保が難しい地域もある。親子サロンの開催や仮設住宅の訪問活動、支援団体同士の情報交換など、子どもたちの健やかな育ちのため関係者が模索を続けている。

おもちや遊びに夢中

親子の憩いの場提供、巡回訪問、意見交換会も

昨年、ママサロンに初めて参加。「子どもが安心して遊べるし、『ママ友』と情報交換ができる。子育て経験豊富なスタッフがそろっており、気軽に来られるのがうれしい」と笑顔を見せる。

こそだてシップは震災の初会合では、具体的な連携の在り方や子育て世代に向けた情報発信方法について意見を交わした。

猪川保育園(同市猪川町)の齋田あかね園長は「各団体や機関が役割分担しながら、子育て世代のニーズに対応していきたい」と今後を見据える。

震災から2年以上が経過したが、被災地の子育て環境の整備はまだ半ば。まちの復興には、育児に取り組む親やこれから子育てする若者たちの視点も必要だ。未来を担う世代の成長を地域全体で見守る仕組みを考えたい。

(大船渡支局・及川慶修)

被災地では東日の子ども近くで、母本大震災後、子どもたちがお茶を飲みながら育児に関する親をから会話を楽しむ。和支援する新たな動きがやかな雰囲気室内に出ている。仮設住宅での生活や教育環境の変化で遊び場や親同士が交流する機会確保が難しい地域もある。親子サロンの開催や仮設住宅の訪問活動、支援団体同士の情報交換など、子どもたちの健やかな育ちのため関係者が模索を続けている。

おもちや遊びに夢中

親子の憩いの場提供、巡回訪問、意見交換会も

昨年、ママサロンに初めて参加。「子どもが安心して遊べるし、『ママ友』と情報交換ができる。子育て経験豊富なスタッフがそろっており、気軽に来られるのがうれしい」と笑顔を見せる。

こそだてシップは震災の初会合では、具体的な連携の在り方や子育て世代に向けた情報発信方法について意見を交わした。

猪川保育園(同市猪川町)の齋田あかね園長は「各団体や機関が役割分担しながら、子育て世代のニーズに対応していきたい」と今後を見据える。

震災から2年以上が経過したが、被災地の子育て環境の整備はまだ半ば。まちの復興には、育児に取り組む親やこれから子育てする若者たちの視点も必要だ。未来を担う世代の成長を地域全体で見守る仕組みを考えたい。

(大船渡支局・及川慶修)



毎月1回こそだてシップが開いている「ママサロン」。親子が安心して過ごすことができる地域づくりが急務だ=18日、陸前高田市・米崎地区コミュニティセンター

盛岡市
陸前高田市
米崎地区コミュニティセンター

至大船渡市
米崎小
県立高田病院

45

お断り 震災特集面は本日30日付で「復興最前線」6回連続が終了。続いて「教訓」と「教訓」内陸から各1回。その後「ふもこ前へ」を掲載します。

(第14部終わり)